



## 地域包括支援センター ケアマネージャーが行く

つな  
繋ぐ



地域福祉センターほのか  
佐藤 保健師

先日ある方からお電話をいただきました。ひとり暮らしの高齢者Aさんが買い物帰りに歩けなくなり歩道でうずくまっていたので、車で自宅まで送り届けたが心配なので連絡しました。Aさんは軽度の右半身マヒがあり歩行が不安定な方です。すぐに訪問し、大事にはいたらなかったAさんの顔を見て安心することができました。このように、地域の皆さまから連絡をいただくことは大変ありがたいことです。

地域包括支援センター（地域福祉センターほのか内）は、日々、高齢者のいのちと暮らしを守るため、ご本人ご家族が望む（自立）生活に必要な支援を調整させていただいています。支援計画（ケアプラン）のもと関係者一同で検討し、サービス調整を行っていますが、現状公的サービスだけでは高齢者の24時間・365日を支えることは困難です。地域の方の見守りや、声かけ目配せ気配り等に期待するところが大きく、ケアプランにも度々登場します。ケアマネージャーの仕事は、支援を必要としている高齢者家

族へ「サービスを繋ぐ」「人を繋ぐ」「地域を繋ぐ」仕事だと痛感しています。支援を必要としている高齢者と一緒に、どれだけの「繋ぐ先」を見つけ、調整することができるのか…頭を悩める日々です。そのような中では、地域にいる皆さま（宝の山）に助けられることがとても救いなのです。

置戸は年齢構成から見ても、人生経験が豊富な団塊の世代の方々や高齢者が多く、いわば「宝の山」が豊富です。高齢化率の高いことがいかにも問題視されることが多いですが、私はそうは思っていません。良くも悪くも人情味あふれる「おせっかい」な地域の力を上手く活かすことが重要だと思うのです。高齢者は住み慣れた地域社会の中で家族や友人に見守られながら暮らしたいという願いがあります。地域包括支援センターでは、町社会福祉協議会や地区民生委員等の関係機関、小地域ネットワーク等地域の皆さまのご協力のもと、今後も「繋ぐ手立て」を模索していきます。

### 編集後記

○前夜祭、人間ばん馬大会、カラオケ大会と、夏まつり期間中に撮影した写真の枚数は2,500枚以上。一昔前の24枚撮りフィルムなら100本以上必要だった計算となり、しみじみデジタルカメラの便利さを感じています。

○60年に一度しか咲かないといわれる笹の花。この花が咲いた後は、一帯の笹は枯れてしまうのだとか。花から実がなり、種となり、次世代の笹が育って再び花が咲くのは60年後。なんとも気の長い話ですが、自然の周期は1年単位とは限らないということのようです。⑧

### 人の動き

●世帯数	1,567 世帯（- 4世帯）
●人 □	3,322 人（- 9人）
●男	1,549人（- 7人）
●女	1,773人（- 2人）

平成24年6月30日現在（ ）内は5月末比

### 喜びと悲しみ（敬称略）

#### ■お悔やみ申し上げます

○高山 佳子	86歳	栄第一	6/9
○由利 敏夫	77歳	秋田	6/24
○古寺 輝光	81歳	拓殖	6/26
○三浦 キヨ	89歳	栄第一	6/28
○井上 英一	81歳	秋田	6/29